

がっこうりん

# 学校林

もり

ゆう ゆう

# 遊々の森

全国子どもサミットin四国 報告書

「学校林・遊々の森」全国子どもサミットin四国実行委員会



～広めよう! 森林づくりの大切さの輪を全国に!!～  
「学校林・遊々の森」全国子どもサミットin 四国  
— 美しい森林づくり推進国民運動 —



## 目次

1.はじめに	1
2.プログラム	2
3.参加小学校の活動発表	
(1) 徳島県吉野川市立川田小学校	3
(2) 徳島県東みよし町立東山小学校	5
(3) 徳島県那賀町立木沢小学校	7
(4) 香川県さぬき市立小田小学校	9
(5) 香川県高松市立屋島東小学校	11
(6) 愛媛県西予市立大和田小学校	13
(7) 愛媛県愛南町立僧都小学校	15
(8) 高知県香美市立大柝小学校	17
(9) 高知県黒潮町立南郷小学校	19
(10) 兵庫県神戸市立北須磨小学校	21
(11) 山形県舟形町立堀内小学校	23
発表の様子と講評	25
4.森林環境教育の推進に向けた先生方の意見交換会	27
5.森林体験学習	31
6.主催団体及び協賛企業等の紹介	34

## はじめに

### 【「学校林・遊々の森」全国子どもサミットの目的】

「学校林・遊々の森」は、子どもたちが自らの行動で学び体験する活動が行われる学習・体験活動の場です。

「学校林・遊々の森」全国子どもサミットは、この活動の取組を広げていくことを目的として、平成19年度に東京都八王子市で開催したのが始まりで、2回目の20年度は熊本市で、今回3回目となる21年度は四国で開催したものです。

『「学校林・遊々の森」全国子どもサミットin四国』では、四国地域から9校、兵庫県と山形県から各1校、計11校の小学校児童や先生方、一般の参加者など約150名が参加し、子どもたちの学習・体験活動の発表や先生方の意見交換会などを行い、これらの情報発信を通じて、森林づくりの大切さの輪を全国に広げていこうとするものです。

### 【学校林とは】

明治時代に、森林の造成を通じ、青少年の林業教育、学校の基本財産の造成を目的に設定されました。

平成18年度時点で、全国の小学校、中学校、高等学校のうち、3,057校において、約2万ヘクタールが設定されています。

学校林活動は、木材価格の低迷等による林業不振や学校カリキュラムの見直しにより停滞していました。

最近になって、総合的な学習の時間の導入により、環境学習の場として、学校林活動が見直されつつあります。しかしながら、全体では各学校単独での活動にとどまり、地域的な広がりには欠けているのが現状です。

学校林活動を多くの学校に広げ、継続的に展開していくためには、学校同士の横のネットワークと地域社会、NPOの支援が課題と考えられます。

### 【遊々の森とは】

総合的な学習の時間などにおいて、学校等による森林環境教育の推進に寄与することを目的として、平成14年に創設された制度です。森林での学習活動、体験活動に国有林のフィールドを提供します。

自然観察、昆虫採集などの森林学習のほか、社会や理科、音楽などの授業、植林・間伐などの体験作業、野外ゲーム、ツリーハウスなどの森林の遊びの場として、継続的な利用が可能です。

平成20年度末現在、全国152箇所が設定されています。

## プログラム

日時:平成21年8月2日(日)～3日(月)

場所:香美市<sup>かみ</sup>香北<sup>かほく</sup>体育センター、高知県立香北青少年の家(高知県香美市)

【8月2日(日)】

13:00～13:20 / 開会式

13:20～14:50 / 小学校児童による森林学習・体験活動発表会

15:00～16:15 / 森林環境教育の推進に向けた先生方の意見交換会  
森林体験学習:積み木で遊ぼう!

16:30～17:45 / 森林体験学習:竹で作った器でご飯を食べよう!

18:20～20:20 / 交流の時間:キャンプファイヤー

- (財)オイスカ海外研修生との交流
- 星空観察

【8月3日(月)】

9:00～11:10 / 3班に分かれての森林体験学習

- 1班:遊びを通して森林<sup>もり</sup>を知ろう!
- 2班:木にふれて創作してみよう!
- 3班:紙すき体験をしよう!

がっこうりん  
学校林<sup>もり</sup>  
遊<sup>ゆう</sup>々の森

全国子どもサミットin四国

「学校林・遊々の森」全国子どもサミットin四国実行委員会



# 川田小学校 学校林発 ～受け継がれる思い・願い～

徳島県吉野川市立川田小学校

6年 枝澤 亜季・成尾 亜美・真杉 沙希・山田 絵理奈

## 1 学校紹介

川田小学校は、徳島県の中央部吉野川市山川町、高越山から流れ出る川田川の河岸段丘の中央に位置している。

山川町には、7世紀前半につくられた「忌部古墳群」や地域の豪族が土器を焼いたとされる「上り窯跡」がある。高越山頂上近くには国の天然記念物「船窪のオンツツジ群落」、学校のすぐ下には、「阿波和紙」として知られる伝統の「手すき阿波和紙会館」などがあり、歴史的文化遺産や豊かな自然が身近にある地域である。



船窪オンツツジ群落



忌部古墳群



手すき阿波和紙会館

## 2 学校林の歴史

川田小学校学校林は1909年より始まっている。今年でちょうど100年を迎える。昭和33年には本校創立80周年記念事業として設定され、昭和34年・35年には大々的に植樹が行われている。それ以降本校高学年の自然体験活動の場となっている。

## 3 森林体験活動 ～学校林にて～



切り株の観察



のこぎりを使って



チェーンソー体験

◎地元森林組合から講師を招き、森林整備活動について教えていただいた。

---

## 4 学校林整備事業から ～間伐材の贈り物～



ベンチとテーブル



本棚



廊下の腰板

◎廊下の腰板からは、ほのかに木の香りが。ベンチとテーブルはみんなが集う憩いの場。

---

## 5 環境問題への取り組み ～川田小学校版 環境ISO～

学校林での森林体験学習や環境問題に関する調べ学習をとおして、子どもたちの環境問題への意識は高まってきた。平成19年度から取り組んでいる徳島県学校版環境ISOの取り組みに加え、6年生独自の取り組みを始めることとなった。

### 学校版環境ISO 行動目標(学校)

- ① ごみの量をへらします。
- ② 電気を節約します。
- ③ 水を節約します。
- ④ クリーンエネルギーについて学習します。
- ⑤ オンツツジの保護育成につとめます。



### 6年生の取り組み

- ① 古紙を回収します。
  - ② 資源ごみを回収します。
- 

## 6 おわりに

子どもたちは、自分たちのふるさと山川町が大好きである。歴史文化にあふれる、自然豊かなこの町のよさをいつまでも残したいと願っている。受け継がれる思いや願いとは、まさにふるさとを愛する気持ちにほかならない。同じように川田小学校に受け継がれてきた学校林での森林体験学習は、子どもたちに、自分たちの身近にある大切なものを気づかせてくれる大きなきっかけとなった。



学校版環境ISO行動目標



全校児童への実践報告



# わたしたちが守る!! ふるさと東山の学校林

徳島県三好郡東みよし町立東山小学校  
6年 大西 恭平・新田 大介

## 1 はじめに

東山小学校は、徳島県西部の東みよし町にあります。東みよし町は町の中央に四国三郎こと吉野川が流れ、清流と美しい緑に囲まれた自然豊かな町です。東山小学校は、吉野川から北に6kmほど入った、標高230mのところにあります。学校のすぐ前には、小川谷川が流れ、まわりには、あふれんばかりの緑があり、鳥のさえずりが聞こえてきます。全校児童がわずか9名の小さな学校ですが、そのよさを生かして、いろいろな活動に楽しく取り組んでいます。



豊かな大自然の中の東山小



味わい深い木造校舎



美しい清流、小川谷川

## 2 学校林の歴史

### (1) 学校林の始まり

大正元年に、学校南側の標高300mの北向斜面75aを学校林として購入しました。その当時、東山校は中学校を併設していて、その職業教育を目的としてスタートしました。

### (2) 伐採・管理

昭和14年に、伐採をしています。その後、昭和15年に植林。さらに昭和37年にもスギ・ヒノキを1,500本植林し、その木は今も残っています。

いちばん最近の間伐は、昭和43年に行われました。平成元年に最終の枝打ちが行われ、今に至っています。植林から約50年。現在は、下草が生え、手入れされた元気な学校林で約460本のスギやヒノキが力強く育っています。

時代をこえて受け継がれていく森林。学校林が未来の東山を支えてくれると信じ、守り続けてきた先輩たちの願いをわたしたちも引き継いでいきたいと思えます。



学校林の表示

## 3 様々な体験活動

### (1) 森をつくり、森を育てる体験活動 ～植林体験、間伐・枝打ち体験～

地域の方や森林組合の方々の協力を得て、ヒノキの植林体験や間伐・枝打ち体験をしました。植林では、ヒノキが



夢を苗木に託して植林



生長する際、「ねじれ木」にならないように、苗木の向きの注意をしながら、そして、しっかりと植えたかどうか確認をしながら植林をしました。現在、わたしたちが植えたヒノキは、順調に根付き、すくすくと育っています。これから50年以上経って、わたしたちがおじいちゃんになった頃には、立派な木に生長しているはずです。

また、間伐と枝打ち体験では、植林後の森林を元気な森林にするために必要な作業であることを学びました。間伐は、スギやヒノキが過密にならないように、本数を減らす作業です。間伐をすることにより、森林内が明るくなり、下草や低木が育ちます。そして斜面の土が流れるのを防ぎ、低木が落葉して土の栄養を豊かにします。生息する生き物も多くなります。さらに、水分をたっぷり含み、良質な水を生み出すことがわかりました。学校林は十分な陽光が入り、下草が生えていました。枝打ちは、節のない良質な木材を育てるために必要な作業です。地面から8mほどの高さまで、木の生長とともに枝打ち作業をするそうです。わたしたちも3mほどの高さまで作業をしました。

これらの体験をとおして、健康な森林に育てることの大切さや良質な木材を生産することの苦勞を学習することができました。



木が過密にならないよう間伐



枝打ちが木の価値を決める

## (2) 森が作り出した美しい水 ～小川谷川の水生生物調査～

森林体験学習を進めていく中で、森林は、水を蓄え、きれいにする働きがあることがわかりました。そこで、学校のすぐ横を流れる小川谷川の水生生物調査を行いました。調査の結果、サワガニをはじめ、ウズムシ・ブユ・トビケラの幼虫のクロカワムシなど、きれいな水にいる指標生物がたくさん見つかりました。東山の森が作り出した小川谷川の水は、やはり、とても美しかったのです。

## (3) 森の恵みを楽しむ活動

東山の豊かな森やその森が育てた美しい川の恵みを、わたしたちは日々の学校生活の中で、思う存分楽しんでいます。

川遊びや釣り、森や川のいろいろな生物たちとの出会い。数えきれないくらいたくさんの思い出があります。木工教室では、地域の達人に教えてもらっておもちゃや飾りなどを作りました。素晴らしい体験を当たり前のようにできるわたしたちは、とても幸せだと感じます。



川魚を釣ろう!



他校の友達と川原で交流



木工の達人を迎えての木工教室



## 4 おわりに

いろいろな体験活動を通して、東山には豊かな自然環境があることを改めて知ることができました。森林が、そして学校林が環境に深く関わっていることもわかりました。学校林のことをくわしく教えてくれた地域の長原さんが「緑＝命」というお話をしてくださいました。今のわたしたちには、その意味がとてもよく分かります。

わたしたちは、ふるさと東山を誇りに感じています。そして、これからも、東山の素晴らしい自然を、そして学校林を大切に守っていきたいと思います。

# 私たちの「遊々の森」活動 ～われら杉の子、森林応援隊～

徳島県那賀郡那賀町立木沢小学校

6年 川尻 優太・中山 健太・西沢 海斗 5年 山田 格

## 1 はじめに

徳島県は、四国の東側に位置し、東を海に、残りを山に、また吉野川や那賀川などの大きな川があり、大変自然環境に恵まれている。

那賀町は、徳島県の南西部に位置する。平成16年度の町村合併により、旧の3町2村が合併して那賀町となった。面積の95%が山林である。特産物はゆず、木頭杉などがある。

本校は、那賀町内7小学校のうちの1校で、全校児童13人の小規模校である。周囲を山々に囲まれ、学校下には坂州木頭川が流れており、大変自然環境に恵まれている。地域とのつながりを大切にし、地域のモノ、人から学ぶ学習を積極的に取り入れている。

## 2 木沢「遊々の森」活動

日本一のオフロード「剣山スーパー林道」沿いに位置する、面積約130haのエリアが木沢「遊々の森」に指定されている。標高1,000mを軽く越える場所に位置し、国の天然記念物でもあるニホンカモシカなども生息している。本校からは車で1時間強の場所に位置するため、「いつでも気軽に」という扱いではないが、今年度は町木沢支所の協力で、ブナの苗木の植樹を行った。「大きく育ててブナの森になってほしい」という願いを込めて、大人も子どもも植樹活動に取り組んだ。今後も積極的に、定期的な植林活動、森林保護活動に取り組んでいきたい。



## 3 山・森に学ぶ

### (1) 森林学習

那賀町は「木頭杉」がよく知られているように、古くから林業が盛んな町である。近年は、木材価格の不振や後継者不足などもあり、林業従事者は減少傾向にある。しかし、那賀町は、豊富な森林資源をエネルギーに活用する「バイオマスタウン構想」を進めている。本年度は、木材や廃材を原料にしたバイオ液体燃料の実証プラントが町内に建設される。このような行政の動きに加え、国産材のよさの見直し、環境問題などから、林業に寄せる期待は少しずつ大きくなってきている。そのような中で、ふるさとの地場産業を見直し、身近な林業に親しみを持たせる意味でも、木頭森林組合の方々の協力をいただきながら、森林学習を行っている。

今年度は、上学年児童が現地での間伐体験を行い、組合の方々から森林の話聞かせていただいた。身近に林業に携わっている人がいるものの、山で木を切った経験があるという児童はいなかったため、全員が初めての経験であった。背丈3mに満たない程度の小木を切っただけでも、今まで真っ暗だった場所に明るい日差しが差し込んでくることを実感した。実際に山に入り体験することで、森林も手入れをしなければならぬことを体感できた。そして、木を切るだけでなく、それを運び出荷していく林業の大変さも、学ぶことができた。



## (2) 親子木工教室

昨年度の夏休みの登校日を利用して、親子木工教室を行った。フレッセ丹生谷のみなさんの協力で、親子で木工に取り組んだ。自分たちで作りたいものの構想を練り、それをもとに大工さんたちがプロの技を駆使しながら仕上げていった。人とのつながりのあたたかさを感じ、木製品のぬくもりを再認識した有意義な活動になった。

## (3) 山菜とり

地域の方の協力で、毎年行わせてもらっている。今年は、ぜんまいやわらび、たけのこまでとらせてもらった。山の恵みを感じるには十分な活動であった。また、調理方法などを知ることによって、決して豊かとはいえない山間地の食生活を、先人たちが工夫してつくりあげ、その食文化のすばらしさを改めて知るよい機会になった。



## (4) 地域行事への積極的な参加

本校は山間地に位置し、旧木沢村にあるただ1校の学校ということもあり、いろいろな方面から行事への参加依頼を受けることが多い。時間の許す限りできるだけ多くの活動に参加し、地域を知り、環境保護活動へ参加することに意義を見いだしている。昨年度は、子ども会を通じて、地域の桜の苗木の植樹活動に参加した。



---

## 4 おわりに

本校は山間部に位置しているが、普段の生活の中で森林について学ぶといった機会は少ない。と同時に、森林の働きや林業についての理解も少ない。今回の学習を通して、表面的な環境問題への取り組みではなく、実体験にもとづいた生きた学習を行うことができた。これからも、今まで取り組んできた山・森に学ぶ活動を継続・発展させ、地域を愛し、自然を愛する児童の育成に努めていきたい。



# ひまわり学習の活動

香川県さぬき市立小田小学校  
5年 植村 悠花・松岡 結衣

## 1 はじめに

さぬき市小田は、香川県の北東部の海岸地帯に位置し、東、西、南の三方を山に囲まれ、北の面だけ海に開けている代表的な海岸盆地です。

本校は児童数25名の小さな学校ですが、異年齢で仲良く活動し、一輪車に乗ったり、なわとびをしたりと体力づくりにも励んでいます。また、夏には海岸のクリーン作戦やいかだ作りなども実施され、地域ぐるみで多彩な行事が行われています。



興津海岸で行われるいかだ作り

## 2 主な活動

### (1) 山や海をきれいにしよう

年に3回地域の方々と協力して全校生でクリーン活動をしたり、山にゴミを捨てないように呼びかける立て看板を立てたりしています。毎年、少しずつごみは減ってきています。



児童と地域の方による看板設置



クリーン作戦

### (2) 木にキャッチフレーズをつけよう

総合的な学習の時間にネイチャーゲームをしました。みんなで木に思い思いのキャッチフレーズをつけました。そして、それぞれがどの木を表しているかを考えて当てるゲームを行いました。おもしろいキャッチフレーズを考える子もいて楽しくネイチャーゲームができ、木への関心が高まりました。